

現場の失敗と  
その反省  
⑪-12

## 国道夜間片側交互通行工事での失敗

### 1. 工事内容

平成18年度4月から3月の12ヶ月間、工事の一部で国道部横断水路設置工に伴う既設情報管路切り回し、国道は片側1車線で交通量は5万台/日。夜間片側交互通行規制による施工。横断水路の床掘が道路地盤より3mの位置となるため既設情報管路を横断水路の下部に通すため、片車線で幅1.2m、高さ1.5~3.2m掘削、延長30m、管路を敷設し、当日に仮舗装まで復旧する手順で施工した。作業時間夜9時~翌朝6時まで。30mを2日間で施工。

### 2. 工事の経緯

当初の調査で国道に既設横断水路φ500

mmのヒューム管が確認されていたので、下越しの段取りと出水に備えて水中ポンプも用意し掘削に着手し順調に施工していたが、途中で粘土質の土砂と想像より多くの出水があり浅い掘削の時は良かったが、深くなるにつれて土留工や既設情報管路の位置確認などに時間が取られてしまい、工程が1時間程度遅れてしまっていた。

さらに掘削途中に現在使用していない水路1.0mの現場打ち水路が現れた。当初余裕を持って作業終了時間を朝4時半に設定していたので予定外の水路下越しをしても朝6時の規制解除に間に合うと判断し施工を続けた。

しかし水路下越し掘削は手作業が多く予想以上の時間を要してしまった。下越し掘

削途中でこれは厳しいかとも思いながらもせつかくここまで手掘りして今さらやめられないとの思いが強く、工程もぎりぎり終了時間も30分程度延長で完了できる、それなら通勤時間の時間前にギリギリ開放可能との判断で施工続行した。

しかし実際は下越しの手掘り施工、既設情報管路の目視確認などに予定以上の作業人員を取られてしまい、管路を施工しながら管路の敷設完了部を埋め戻す予定であったのが、人員不足で同時施工ができず、埋め戻し工程がすべて朝6時以降の遅延になってしまい、開放が7時過ぎとなってしまい、朝の通勤時間帯に片側通行となり渋滞を招いてしまった。また、埋め戻しも規定どおりの転圧ができずに施工したので、その夜、次工程の管路敷設の続きと前日施工箇所を再度掘削し規定どおりの転圧を行った。手直し作業に作業員5人、10トンダンプ5台、アスファルト合材10トン、廃材処理10トン、0.4m<sup>3</sup>バックホウ1台、がかかってしまった。



写真-1 施工箇所写真

### 3. 反省点

予定外の埋設物が出た段階で、施工延長を減らし施工を行うべきであった。規制時間が決められている施工では余裕を持った工程で施工し、施工中不安な事項を発見したら無理をせず施工量を減らすなどの判断が必要であった。規制時間を過ぎると渋滞等で多方面に多大な迷惑がかかるので今後このような事態を起こさないように工事に取り組んで行きたいと思う。